

上田市文化財調査報告書第80集

平成10年度

市内遺跡

平成10年度市内遺跡発掘調査報告書

1999.3

上 田 市
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第80集

平成10年度
市内遺跡

平成10年度市内遺跡発掘調査報告書

1999.3

上 田 市
上田市教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う、平成 10 年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業・県費補助事業として、上田市(上田市教育委員会事務局文化課文化財係)が実施した。
- 3 現地調査は、上田市教育委員会事務局職員があたり、各調査ごとにその氏名を記した。
- 4 現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの賃貸借・運転については、和農興 竹内和好が行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
- 6 本調査にあたり、開発施工主、担当課に調査実施に係る調整等、格段の御協力をいただいた。
- 7 本調査に係る事務局の体制は、以下のとおりである。

教 育 長	我妻 忠夫
教 育 次 長	宮下 明彦
文 化 課 長	川上 元
文化財係長	岡田 洋一(平成10年4月30日退任)
〃	細川 修(平成10年5月1日着任)
文化財係職員	中沢徳士、尾見智志、塩崎幸夫、久保田敦子、久保田 浩、 西澤和浩、山崎敦子(平成10年4月1日着任)、清水 彰、小笠原正 望月貴弘、古野明子、松野ひろみ、須齋千恵子(平成10年4月1日 着任)
- 8 本書作成に係る作業は、以下のとおり分担して行った。

現 地 調 査	西澤、山崎、清水
整 理 作 業	山本万里、丸田由紀子
遺 物 写 真	西澤
本書執筆・編集	西澤、清水

凡 例

土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色彩票監修の『新版標準土色帖』1990を用いて判別した。

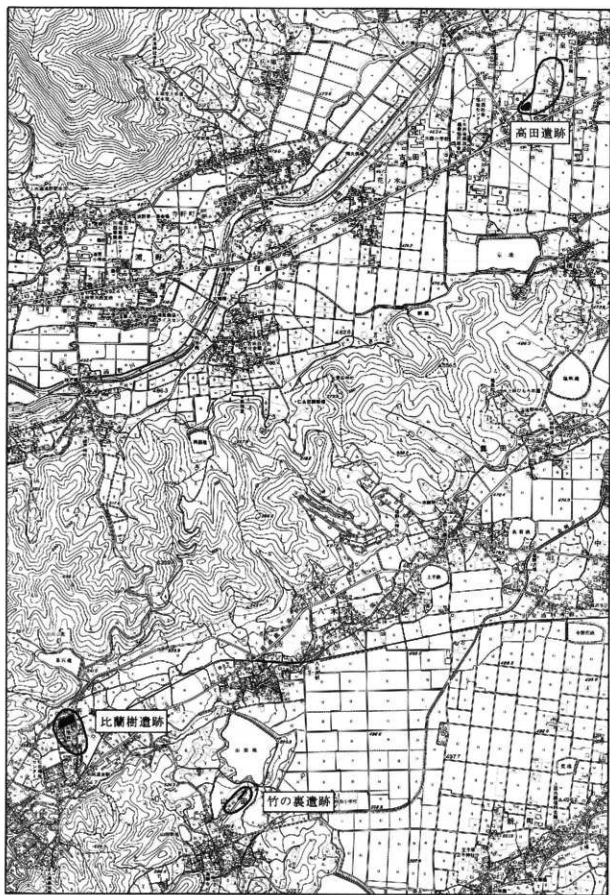
目 次

例 言

凡 例

目 次

平成10年度市内遺跡発掘調査位置図	1
竹ノ裏遺跡(市道路改良)	4
金鉢遺跡(県道上田丸子線建設)	6
八幡裏遺跡(国立長野病院駐車場造成)	8
国分寺周辺遺跡群(前田遺跡・共同住宅建設)	10
八幡裏遺跡(海禅寺裏遺跡・市道路改良工事生塚新田線)	12
国分遺跡群(堂西遺跡・市道川辺町国分線建設)	14
八幡裏遺跡(伝染病舎建設)	16
比蘭樹遺跡(県営住宅団地建替)	18
高田遺跡(共同住宅建設)	20
内堀居館址(市営住宅建替)	22
常入遺跡群(下町田遺跡・信州大学繊維学部遺伝子実験棟建設)	24
写真図版	26
報告書抄録	27



<平成10年度発掘調査位置図>



<平成10年度発掘調査位置図>



<平成10年度発掘調査位置図>

竹ノ裏遺跡

- | | |
|---------|---------------|
| 1 調査地 | 上田市大字山田字竹ノ裏 |
| 2 原因 | 上田市道路改良工事 |
| 3 開発面積 | 約2,400㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年3月10日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 西澤和浩 |

『遺跡の環境と経過』

竹ノ裏遺跡は、JR上田駅から南西へ約8.7km、塩田平の西端に位置し、山田池の南方にのびる舌状の台地上にある。この台地上も住宅が建築されてはいるが、まだそのほとんどは農地である。

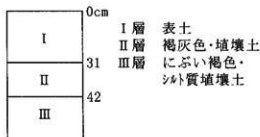
「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると「山田集落の西北方から、およそ4,000㎡にわたって縄文期の磨製石斧・後期の須恵器が出土している。」とある。

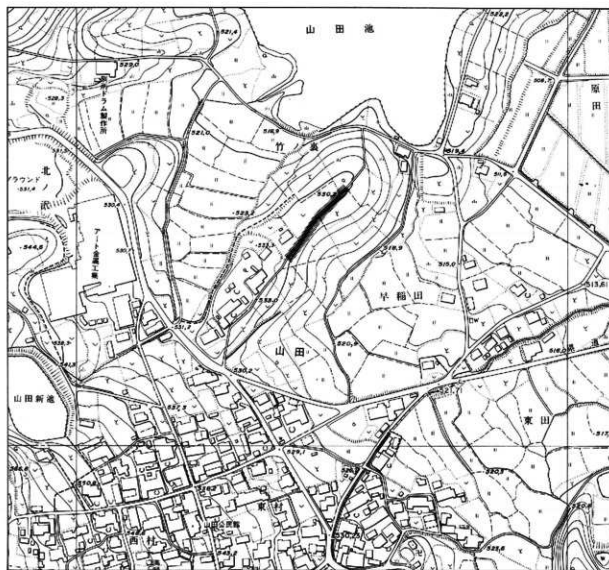
平成9年7月、上田市建設部土木課より未舗装の市道を、アスファルト舗装に改良するとの連絡が入った。上田市文化財分布図で確認したところ、竹ノ裏遺跡の範囲内であることが判明したため、埋蔵文化財保護協議を行い試掘調査を実施した。

『調査の結果』

調査地は、台地のほぼ頂上部に位置している。未舗装の市道部分約85mに、トレンチ1本を設定し試掘調査を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

『土層柱状図』





竹ノ裏遺跡位置図



かたはらこいせき
金鉾遺跡

- | | |
|---------|----------------|
| 1 調査地 | 上田市大字本郷字上原・中原 |
| 2 原因 | 主要地方道上田丸子線建設 |
| 3 開発面積 | 約10,000㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年3月11日～12日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 西澤和浩 |

【遺跡の環境と経過】

金鉾遺跡は、JR上田駅より南西約4.4kmの塩田平に位置し、ほ場整備の完了した田園地帯にある。

「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「下本郷集落の北端から、南北およそ300m、道路の東方約100mの範囲に下川原、西方約200mの範囲に北方の下窪、南方の金鉾の3遺跡がある。西方の2遺跡は、ほ場整備で全壊状態である。いずれも後期の土師・須恵器を出土し、一連の遺跡と考えられている。」とある。

平成9年7月、長野県上田建設事務所より道路改良工事を実施するとの連絡を受け協議を行った結果、用地買収完了後に試掘調査を実施することで同意を得た。同事業で、平成8年6月から金鉾遺跡発掘調査(1,200㎡)を実施し、平安時代の掘立柱建物址6棟、土壇1基、溝址6条の遺構が検出され、土師・須恵器が出土している。

今回、試掘調査を行った場所は、平成8年に発掘調査を実施した地形の一段上がった西側に当たる。

【調査の結果】

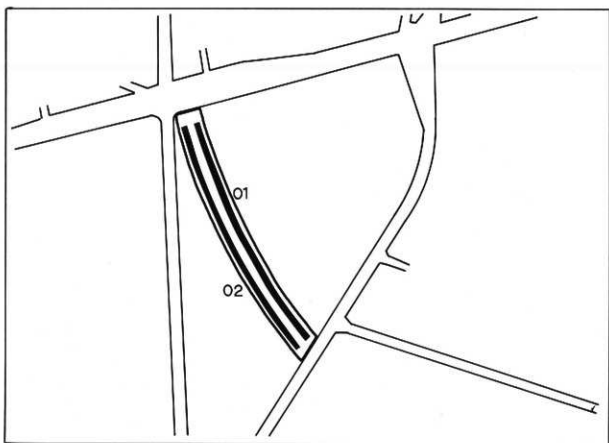
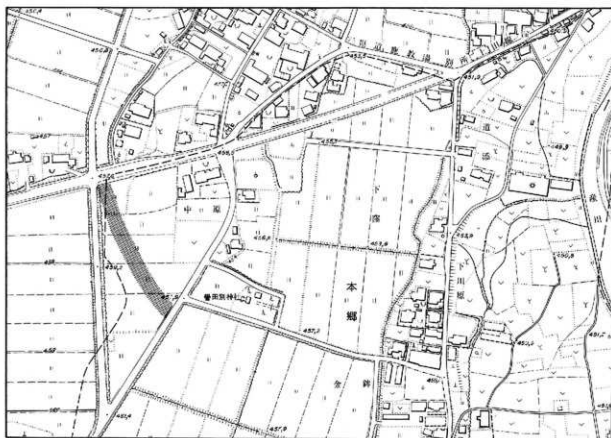
16m道路幅にトレンチを2本設定し、試掘調査を行った。試掘対象面積は、約2,400㎡である。

トレンチのどの区間も、耕作土が約20～30cmあり、その直下は強粘質土層となっている。どの土層からも遺構・遺物については、検出されなかった。この結果、発掘調査の必要は認められず、平成10年3月から本工事は着手された。

【土層柱状図】

Tr-01・02		
I	0cm 25	I層 耕作土
II		II層 重埴土・灰白 ～明青灰





金鉾遺跡位置図

八幡裏遺跡

- 1 調査地 上田市緑が丘一丁目27番地11
- 2 原因 国立長野病院駐車場造成
- 3 開発面積 約317㎡
- 4 調査日 平成10年3月18日
- 5 調査方法 幅約1mのトレンチを入れる
- 6 調査担当者 西澤和浩

『遺跡の環境と経過』

本調査地は、JR上田駅から北へ約1.8kmの住宅地の中にあり、八幡裏遺跡の範囲に含まれている。「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「少なくとも20,000㎡におよぶ広範な遺跡で、土師中・後期の坏片等が出土している。」とある。

平成6・8・9年度に、国立長野病院建設に伴う発掘調査が行われ、縄文時代の敷石住居址・注口土器・吊り手土器、平安時代の竪穴式住居址・黒色処理された土器・墨書土器・灰軸陶器等が検出・出土している。この地域の遺跡が太郎山扇状地の押し出しで、上田市では最も深い、地下約2mに存在していることが判明した。

平成10年1月9日に国立長野病院関係者と国立長野病院駐車場造成に伴う埋蔵文化財保護協議を行い、用地買収及び民家の取壊し終了後に試掘調査を行うことで同意を得た。

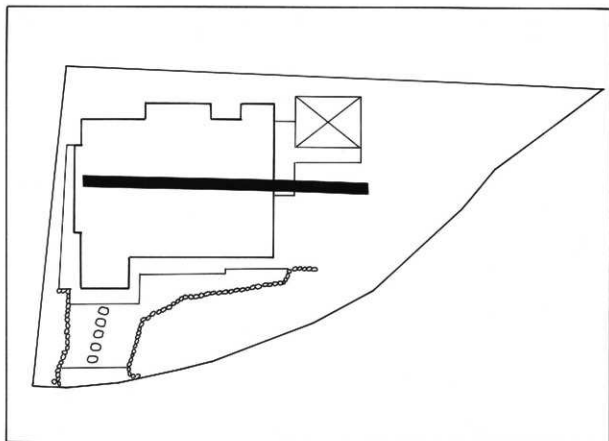
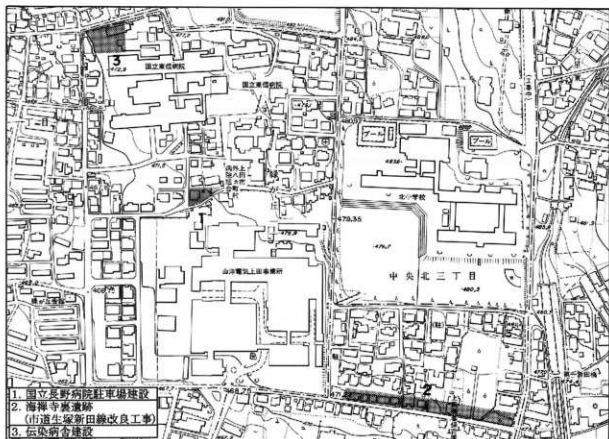
『調査の結果』

トレンチを1本設定し、0.4バックホーで掘削、試掘調査を行った。地表下240cmから15cmの厚さの包含層は検出されたが、遺構は全く確認されなかった。この結果、発掘調査の必要は認められず造成工事が着工された。

『土層柱状図』

I	0cm	I層 表土
II	30	II層 にぶい褐色・5cm大の礫多く混じる
III	100	III層 褐灰色・15cm大の礫多量に混じる
IV	180	IV層 にぶい黄褐色・軽埴土
V	240	V層 黒褐色・土器片混じる
VI	255	VI層 褐色・軽埴土





八幡裏遺跡位置図

こくぶんじしゅうへんいせきぐん まえだいでせき
国分寺周辺遺跡群 (前田遺跡)

- | | |
|---------|------------------------|
| 1 調査地 | 上田市大字国分字堀東沖1474-2外4筆 |
| 2 原因 | 共同住宅建設 |
| 3 開発面積 | 1479.47㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年3月20日・平成10年12月22日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 山寄教子・清水 彰 |

『遺跡の環境と経過』

上田市大字国分地籍は、北方には段丘崖が東西に続き、その上方には上田市のシンボルといえる太郎山の雄姿が見られる。南方には、千曲川の氾濫原に当たる平坦面が開け、その先に千曲川が流れている。千曲川の対岸には小牧山塊が広がる。この付近は、上田小県地方の模式的な段丘地形といわれ、4段にわたるひな壇のような地形である。

国分寺周辺遺跡群は、浦沖・前田・仁王堂・明神前・堀・西沖の6遺跡により構成されている。今回の調査地は、前田遺跡に当たる。「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「上沢公民館の東南から、80mほど南下した地点の西方畑地付近が遺跡である。南北が宅地化されており、範囲は明確でないが、縄文中期の加曾利E式土器の破片表採されている。」とされている。

平成10年3月、上田市に開発事業申請が提出され、現地調査が行われた。その際、既存建物以外の部分は3月中に試掘調査を実施し、既存建物部分については、建物撤去後試掘を行うこととした。

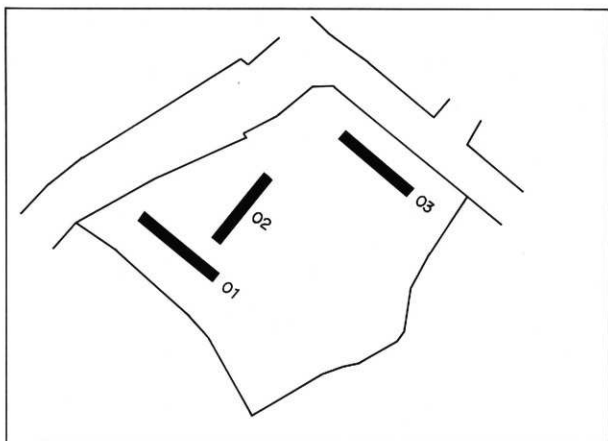
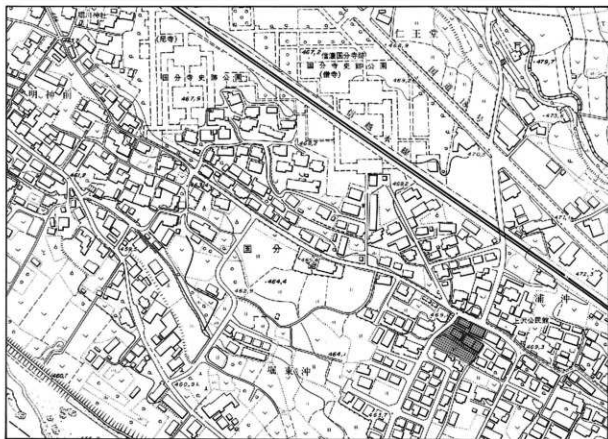
『調査の結果』

調査は、3本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。

その結果、Tr-01-02では、少量の土師・須恵器片が確認されたが遺構は検出できず、他所からの流れ込みと思われる。Tr-03では、遺構・遺物とも全く確認できなかった。

『七層柱状図』





国分寺周辺遺跡群位置図

にちまんうらいせき かいぜんじうないせき
八幡裏遺跡 (海禅寺裏遺跡)

- 1 調査地 上田市中央北二丁目
 2 原因 市道生塚新田線改良工事
 3 開発面積 約3,200㎡(L=約200m W=16m)
 4 調査日 平成10年3月20日
 5 調査方法 幅約1mのトレンチを入れる
 6 調査担当者 西澤和浩

『遺跡の環境と経過』

八幡裏遺跡の中に含まれる海禅寺裏遺跡は、「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると「開禅寺と呈蓮寺の北方にあり、宅地の間の僅かな空地から、縄文中期の加曾利E式・後期の堀之内式、弥生後期の箱清水式、土師中期の土器片などが表探された。」とある。また、平成9年度の国立長野病院南入口にあたる、市道路改良工事に伴う発掘調査では、古墳・奈良・平安時代の竪穴式住居址が確認されている。

平成9年7月に上田市都市整備部都市計画課から都市計画道路生塚新田線道路改良工事を計画しており、平成10年度着工予定との連絡が入り、両者で埋蔵文化財保護協議を行い、平成9年度中に試掘調査を行うことで同意を得た。

『調査の結果』

試掘調査を行った場所は市道の拡幅部分で、トレンチは歩行者の通行を考慮し、9本設定した。

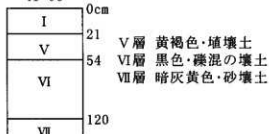
Tr-01では、GL-80cmから土壌3基を検出し、土師器片が出土した。Tr-02では、遺構は確認されなかったが、土師器の杯底部・甕口縁部・灰軸陶器片が出土した。Tr-03では、遺構は確認されなかったが、土師器片が出土した。Tr-04では、土壌1基が検出され、土師器の杯・甕片、灰軸陶器片が出土した。Tr-05では、竪穴式住居址と竈址と思われる遺構が1件検出された。Tr-06では、GL-54cmから上器を多量に含む包含層が約66cmの厚さで堆積していた。この包含層からは、土師器の杯・甕・高坏片が出土した。Tr-07・08・09は、GL-97cmで遺構が確認され、土師器の甕・高坏・杯片が出土した。この試掘調査の結果、用地買収終了後の工事着手前に発掘調査を行うこととなった。

『土層柱状図』

Tr-01~04



Tr-06

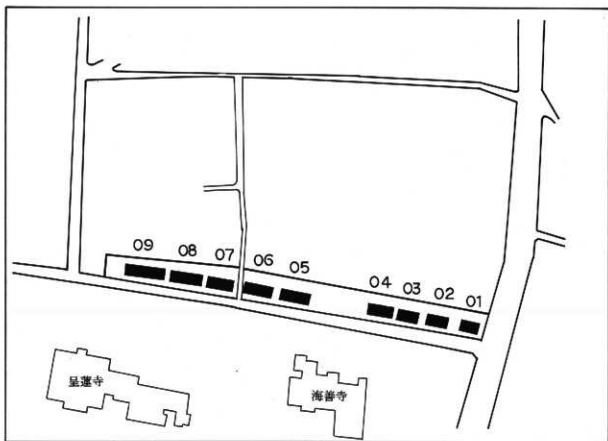
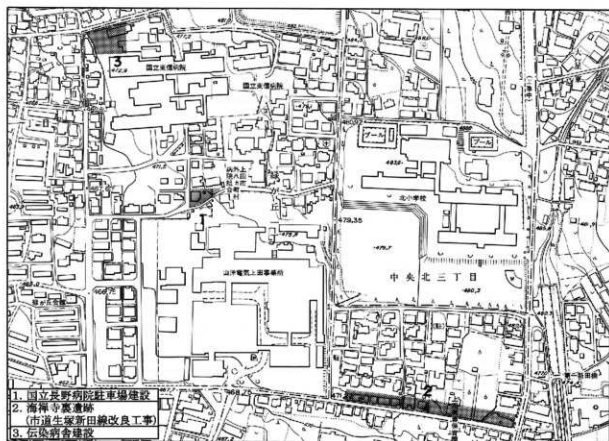


Tr-05



Tr-07~09





八幡裏遺跡位置図

こくぶんいせきぐん どうにしせいせき
国分遺跡群(堂西遺跡)

- 1 調査地 上田市大字国分字堂西
- 2 原因 市道川辺町国分線建設
- 3 開発面積 10,350㎡
- 4 調査日 平成10年6月4日
- 5 調査方法 幅約1mのトレンチを入れる
- 6 調査担当者 山崎教子・清水 彰

『遺跡の環境と経過』

上田市大字国分地籍は、北方には段丘崖が東西に続き、その上方には上田市のシンボルといえる太郎山の雄姿が見られる。南方には、千曲川の氾濫原に当たる平坦面が開け、その先に千曲川が流れている。千曲川の対岸には小牧山塊が広がる。この付近は、上田小県地方の模式的な段丘地形といわれ、4段にわたるひな壇のような地形である。

国分遺跡群は、上沢沖・古城・堂浦・屋敷・堂西の5遺跡により構成されている。今回の調査地は堂西遺跡に当たる。「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「現国分寺の北西方の水田地帯、およそ60,000㎡にわたる遺跡で、水田地帯のため、全てが連続する1個の遺跡とされるか明確でない。出土遺物は縄文期の石椀、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器である。」とされている。

今回の試掘調査は、平成9年度に発掘調査を実施した部分の西側について遺跡の有無を確認した。その際、地権者の承諾は上田市土木課に得てもらった。

なお、トレンチの番号は、『平成9年度市内遺跡』(1998年上田市教育委員会)中の国分遺跡群からの連番である。

『調査の結果』

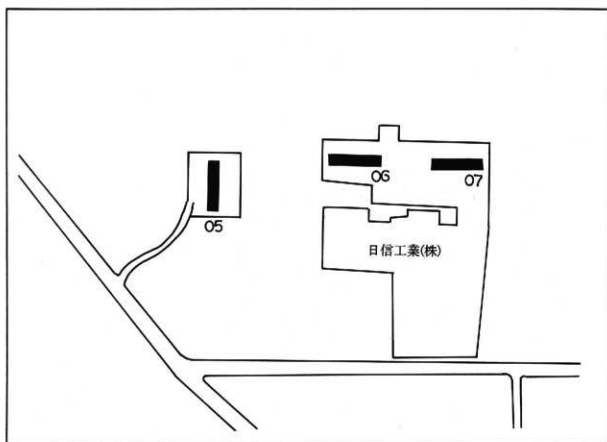
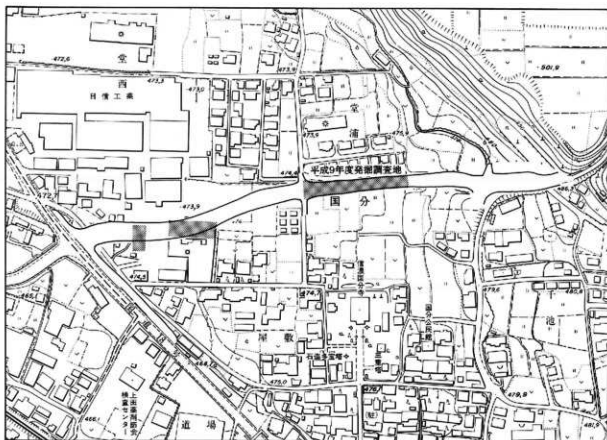
調査は、3本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。

その結果、Tr-05では、須恵器片が2片確認されたが遺構は確認されず、他所からの流れ込みと思われる。Tr-06・07では、遺構・遺物とも全く検出されなかった。

『土層柱状図』

I	0cm 20	I層 褐灰色・3cm程の礫が混じるシルト質壤土
II	44	II層 暗褐色・10cm大の礫が混じるシルト質壤土
III		III層 黒褐色・重粘土 (遺構検出面)





国分遺跡群位置図

はちまんうらいたす 八幡裏遺跡

- | | |
|---------|--------------------|
| 1 調査地 | 上田市緑が丘一丁目2245番地1 |
| 2 原因 | 上田地域広域行政事務組合伝染病舎建設 |
| 3 開発面積 | 約2,200㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年8月1日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 西澤和浩 |

『遺跡の環境と経過』

本調査地は、JR上田駅から北北西約1.9km、国立長野病院西側に隣接した場所である。

八幡裏遺跡は「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「少なくとも20,000㎡におよぶ広範な遺跡で、土師中・後期の坏片等が出土している。」とある。

平成6・8・9年度に、八幡裏遺跡内の国立長野病院建設に伴う緊急発掘調査が行われ、縄文時代の敷石住居址・注口土器・吊り手土器、平安時代の竪穴式住居址・黒色処理された土器・墨書土器・灰軸陶器等が検出・出土している。この地域の遺跡が太郎山扇状地の押し出しで、上田市では最も深い、地下約2mに存在していることが判明している。

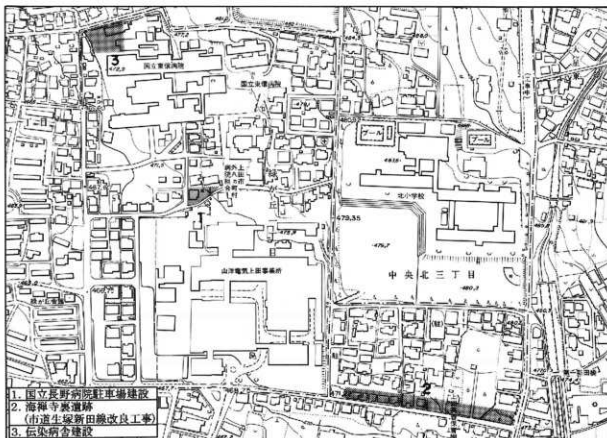
平成9年9月末、事業主体者である上田地域広域行政事務組合と、伝染病舎建設に伴う埋蔵文化財保護協議を行った結果、試掘調査を平成10年中に行うことで同意を得た。

『調査の結果』

調査地に3本のトレンチを設定し、0.4バックホーで掘削し調査を行った。

その結果、この場所はGL-平均1.7m、深いところではGL-約2.5mまで攪乱されていることが判明し、遺構・遺物については全く確認されなかった。





八幡裏道跡位置図

ひらんじゅいせき
比蘭樹遺跡

- | | |
|---------|---------------|
| 1 調査地 | 上田市大字別所温泉 |
| 2 原因 | 長野県営住宅団地建替 |
| 3 開発面積 | 約3,000㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年8月6日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 西澤和浩 |

『遺跡の環境と経過』

本調査地は、JR上田駅から南西に直線で約9.7km、塩田平の西端に位置している。

比蘭樹遺跡は「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「縄文早期の繊維土器・打製石斧・磨製石斧・石匙が、出土している。分布範囲は判然としない。」とある。

平成9年10月、長野県住宅部住宅課より平成10年度に長野県営別所住宅団地建替事業を行うとの連絡を受け、その位置が比蘭樹遺跡の範囲に係ることが判明したため、埋蔵文化財保護協議を行い、平成10年既存団地取壊し後に試掘調査を行うことで同意を得た。

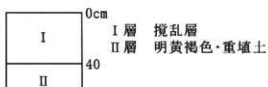
『調査の結果』

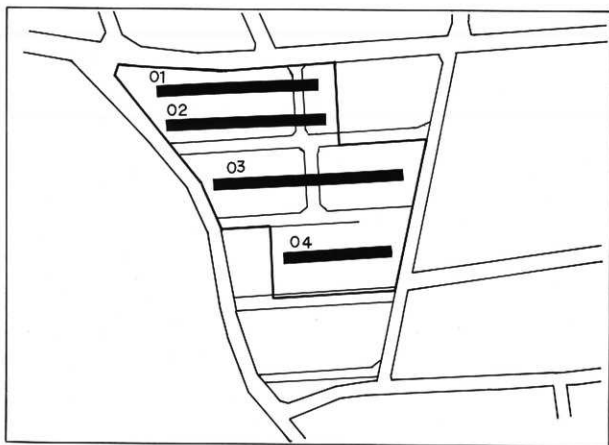
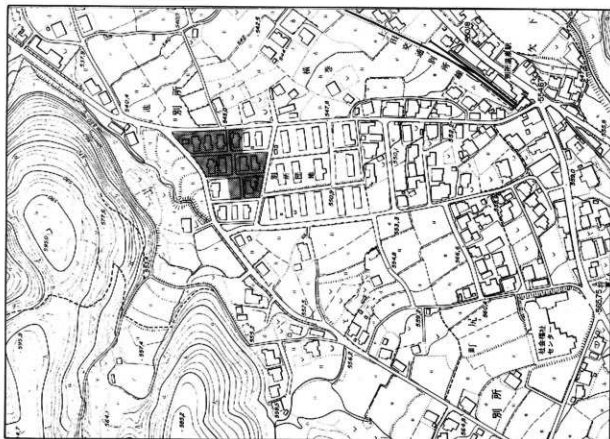
調査地に4本のトレンチを設定し、0.4バックホーで掘削し試掘調査を行った。

4本のトレンチ全てで、地表下約40cmまで団地造成のためと考えられる攪乱が確認された。

また、遺構・遺物は全く確認されなかった。この結果、試掘調査終了後に工事は実施された。

『土層柱状図』





比蘭樹遺跡位置圖

たかだいせき 高田遺跡

- | | |
|---------|---------------|
| 1 調査地 | 上田市大字小泉766番地2 |
| 2 原因 | 共同住宅建設 |
| 3 開発面積 | 2,817㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年8月28日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 西澤和浩 |

『遺跡の環境と経過』

本調査地は、JR上田駅から国道143号線で西へ約6kmの川西地区に位置する。

高田遺跡は「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「町小泉集落西南部の畑、およそ4,000㎡にわたって縄文中期の加曾利E式、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師器、後期の須恵器などを出土している。」とある。また、平成2年度に県営ほ場整備事業に伴う高田遺跡発掘調査(約3,000㎡)では、奈良・平安時代の竪穴住居址47件、土壇22基、溝址7基、掘立柱建物址14件を検出しており、土師器・須恵器の良好な遺物も出土している。平成5年度には本調査地の隣接地で、共同住宅建設に伴う高田遺跡発掘調査(約800㎡)が行われ、奈良・平安時代の竪穴住居址4件、土壇4基、溝址4条、ピット71基が検出され、土師器・須恵器・布目瓦が出土している。

平成10年7月16日付開発事業届(共同住宅建設)が上田市に提出され、7月28日現地調査を実施した結果、試掘調査が必要であると判断し、地権者の承諾を得た上で調査を実施した。

『調査の結果』

調査地に4本のトレンチを設定し、0.4㎡クワにより掘削、試掘調査を行った。

その結果、Tr-01では竪穴住居址と思われる遺構を1件、溝址2条、土壇9基を検出し、土師器片・須恵器の杯・甕・蓋片などが出土した。

Tr-02では、溝状遺構1条を検出し、須恵器の杯・甕片を出土した。

Tr-03では、土壇1基、溝状遺構1条を検出したが、遺物は確認されなかった。

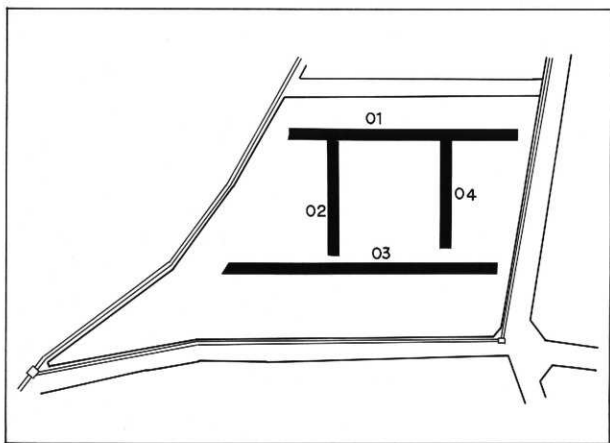
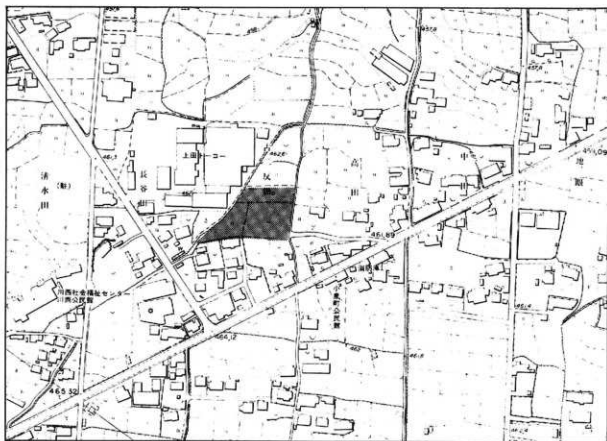
Tr-04では、遺構・遺物ともに確認できなかった。

この試掘調査の結果、開発面積のうち約750㎡について発掘調査が必要と判断された。その後、地権者と埋蔵文化財保護協議を行った結果、平成10年11月に発掘調査が実施され、記録保存された。

『土層柱状図』

I	0cm	I層	耕作土
II	15	II層	灰黄色・重埴土
III	25	III層	浅黄色・重埴土
IV	39	IV層	明黄褐色・シト質埴土
V	53	V層	暗灰黄色・軽埴土 (遺構検出面)





高田遺跡位置図

うちぼりきょかんし
内堀居館址

- | | |
|---------|----------------|
| 1 調査地 | 上田市大字五加1126番地外 |
| 2 原因 | 上田市営住宅建替 |
| 3 開発面積 | 約6,000㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年11月17・18日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 西澤和浩 |

『遺跡の環境と経過』

内堀居館址は、JR上田駅から直線距離で約8km、塩田平のほぼ中央に位置し、産川が南を流れ、曲って東側を北流している。西と北は産川の古い河床を利用した水堀の跡に囲まれ、北側の水堀と産川の氾濫原との接点には、土塁を築いて水をたたえたが、後世土塁を切って水を落としたと考えられる跡が歴然としている。(「上田・小県誌第1巻歴史編上(二)古代中世」上田・小県誌刊行会)

平成9年9月末、上田市都市整備部景観建築課より、平成10年度から市営内堀団地第3期建替事業を実施する予定との連絡があり、内堀居館址の範囲に含まれるため、埋蔵文化財保護協議を行った結果、既存団地建物解体後に試掘調査を行うことで同意を得た。

『調査の結果』

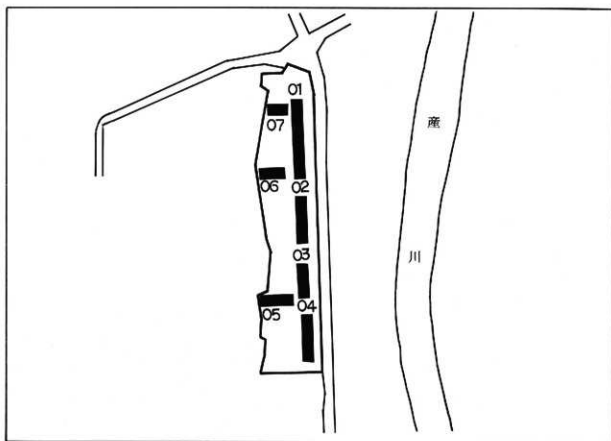
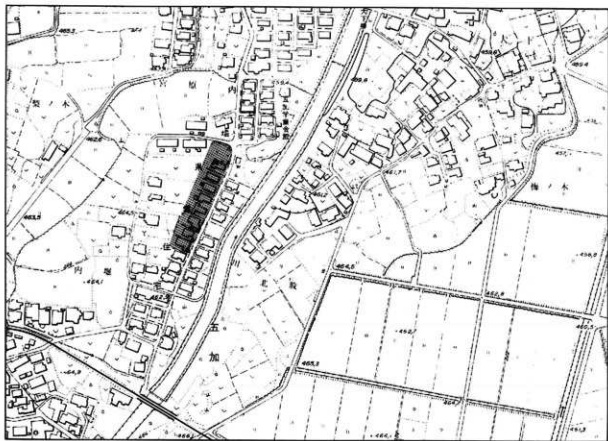
調査地にトレンチを7本設定、0.4ハッケで掘削し、試掘調査を行った。

Tr-01から04まで土層は、この地が河川であったことを示していた。遺構については全く確認されなかった。遺物については、Tr-03で河川によって流されてきたと思われる、瓦片・陶磁器片が僅かに確認されただけである。

『土層柱状図』

	0cm	
I	17	I層 表土
II	26	II層 浅黄色・砂壤土 3～5cmの礫含む
III		III層 黄灰色・砂土 20cm大の礫多量に含む





内堀居館址位置図

とあいらいせきでん しもまらだいでき
常入遺跡群 (下町田遺跡)

- | | |
|---------|------------------|
| 1 調査地 | 上田市常田三丁目15-1 |
| 2 原因 | 信州大学繊維学部遺伝子実験棟建設 |
| 3 開発面積 | 約700㎡ |
| 4 調査日 | 平成10年12月11日 |
| 5 調査方法 | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 西澤和浩・山崎敦子 |

『遺跡の環境と経過』

常入遺跡群は、信州大学繊維学部の敷地を含み、下町田遺跡ほか6遺跡からなる集合遺跡である。「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「信州大学繊維学部敷地の中央部から、常田池の南方にかけて、東西およそ650m、南北およそ400mの広範囲な地籍に、繊維学部敷地から常田池の西方にかけて、北部で、下町田・上町田の2遺跡、中央部で中村・西町田・東町田の3遺跡、段丘端に接する南部で手筒山・藤ノ森の2遺跡が続いている。この遺跡からは、いずれも弥生後期の箱清水式土器、前期から晩期にわたる土師・須恵器を出土し、一体の遺跡と思われる。」とある。

下町田遺跡は、平成8年に大学院棟新設に伴う発掘調査を行っており、弥生時代後期の竪穴式住居址10件等を検出し、弥生時代後期箱清水式土器の壺・甕・高坏・鉢など、良好な遺物が出土している。

平成10年11月、信州大学繊維学部より遺伝子実験施設を新設するとの連絡を受け、埋蔵文化財保護協議を行い、早急に試掘調査を行うことで同意を得た。

『調査の結果』

調査地に4本のトレンチを設定し、0.4バックホーで掘削を行い調査を行った。

Tr-01では、土壌を3基検出し、弥生時代後期箱清水式土器の壺・器台片が出土した。

Tr-02では、竪穴住居址と思われる遺構を1件と、土壌1基を検出した。遺物は、弥生後期箱清水式土器の甕片と、土師器の甕・壺片が出土した。

Tr-03では、遺構は確認できなかったが、土師器の高坏片が出土した。

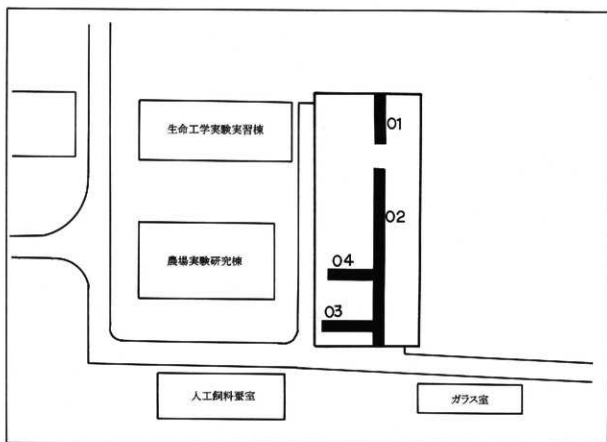
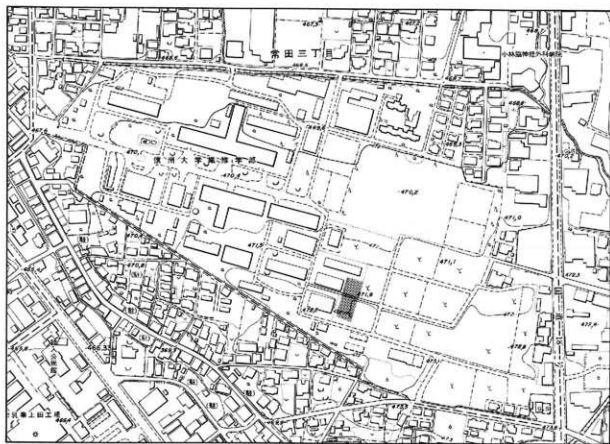
Tr-04では、溝状遺構1条と土壌1基を検出し、土師器の甕・壺・高坏片が出土した。

この結果、信州大学繊維学部と埋蔵文化財保護協議を行い、平成11年度に発掘調査を実施することで同意を得た。

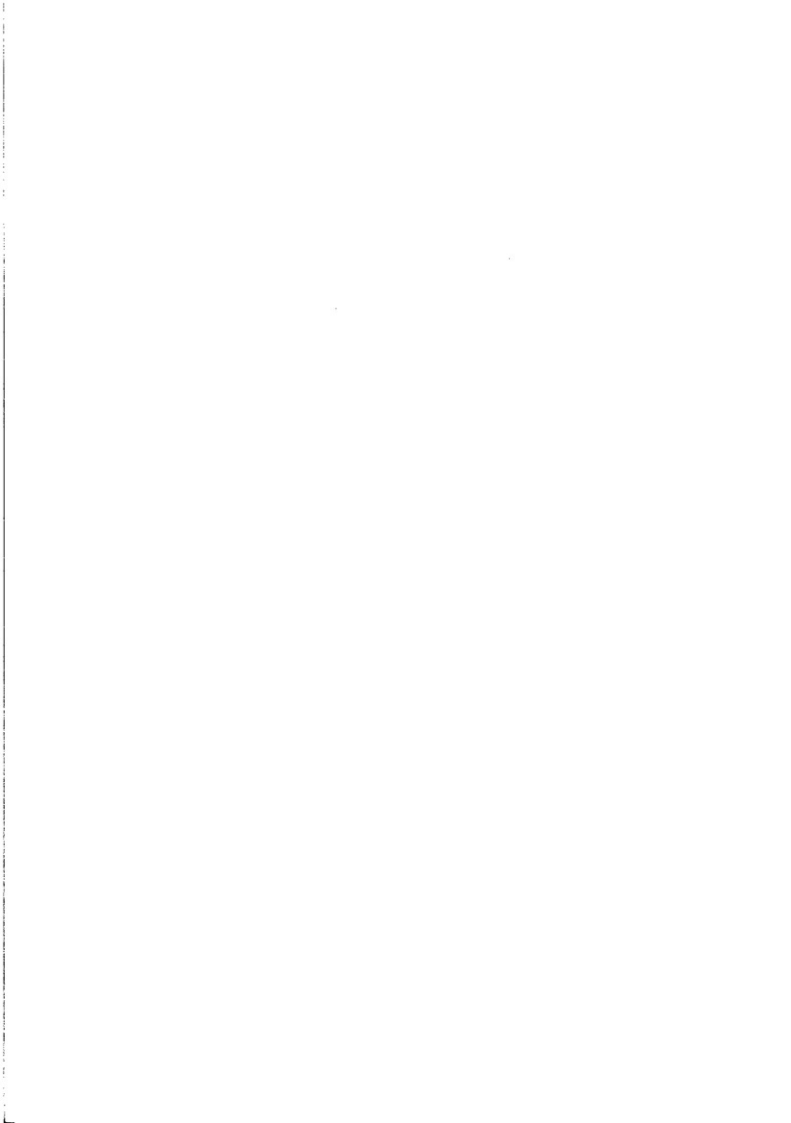
『土層柱状図』

0cm	
I	I層 表土
20	II層 灰黄褐色・シルト質壤土
II	III層 褐色・1~2cmの礫含む
44	シルト質壤土
III	
70	(遺構検出面)





常入遺跡群(下町田遺跡)位置図





八幡裏遺跡(海禪寺裏遺跡) 甕



八幡裏遺跡(海禪寺裏遺跡) 甕



八幡裏遺跡(海禪寺裏遺跡) 甕



八幡裏遺跡(海禪寺裏遺跡) 甕

報告書抄録

ふりがな	へいせい10ねんどしなしいせき			
書名	平成10年度 市内遺跡			
副書名	平成10年度市内遺跡発掘調査報告書			
シリーズ名	上田市文化財調査報告書			
シリーズ番号	第80集			
編著者名	西澤和浩、清水 彰			
編集機関	上田市教育委員会			
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神2丁目4番74号 TEL 0268(22)4100			
発行年月日	1999年3月25日			
ふりがな 所収遺跡名	コード		試掘・事業 区域面積 (㎡)	調査原因
	市町村	遺跡番号		
竹ノ裏遺跡	20203	276	2,400㎡	市道路改良工事
金鉢遺跡		131	2,800㎡	国補道路改良事業
八幡裏遺跡		64	317㎡	国立長野病院駐車場造成
国分寺周辺遺跡群(前田遺跡)		56(226)	1,523㎡	共同住宅建設
八幡裏遺跡(海津寺裏遺跡)		64(312)	7,500㎡	市道路拡幅工事
国分遺跡群(堂西遺跡)		54(235)	10,350㎡	市道路改良工事
八幡裏遺跡		64	2,200㎡	伝染病舎建設
比蘭樹遺跡		302	3,000㎡	県営住宅建替事業
高田遺跡		383	2,817㎡	共同住宅建設
内堀居館址		448	6,000㎡	市営団地建替事業
常入遺跡群(下町田遺跡)		57(325)	700㎡	信州大学実験施設建設

*遺跡番号の()内は、「上田市の原始・古代文化」(上田市教育委員会1977年3月)に記載された遺跡番号である。

上田市文化財調査報告書第 80 集

平成 10 年度

市 内 遺 跡

平成 10 年度市内遺跡発掘調査報告書

発 行 平成 11 年 3 月 25 日
上田市教育委員会
〒386-0025 上田市天神二丁目 4 番 74 号

印 刷 田口印刷株式会社
